

第3回札幌市生涯学習推進検討会議

日 時： 平成28年10月24日（月）

午前9時30分

会 場： 札幌市教育委員会

4階 教育委員会会議室

次 第

議 事

1 協議事項

第3次札幌市生涯学習推進構想の素案について

2 その他

資 料

- ・ 第3次札幌市生涯学習推進構想 素案・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
- ・ 第2回札幌市生涯学習推進検討会議における意見要旨・・・・・・・・・・資料2
- ・ 札幌市まちづくり戦略ビジョン ビジョン編（抜粋）・・・・・・・・・・参考資料

札幌市生涯学習推進検討会議 座席表

平成28年10月24日(月)

佐久間 章 三上 直之
 (札幌国際大学 教授) (北海道大学 准教授)

◎ ◎

(議長) (副議長)

石井 知子 ◎
 (公募委員)

◎ 佐々木 邦子
 (北翔大学 教授)

報道席

臼井 栄三 ◎
 (北海道教育大学 岩見沢校 特任教授)

◎ 竹川 勝雄
 (公募委員)

大森 義行 ◎
 (札幌市PTA協議会会長)

◎ 平島 美紀江
 (NPO法人 のこたべ 代表)

喜多 洋子 ◎
 (NPO法人子育て支援
 ワーカーズ プチトマト)

◎ 三坂 桂子
 (福住小学校地域連携協議会
 コーディネーター)

木村 佳子 ◎
 (札幌市立あやめ野中学校 校長)



○ ○ ○
 山根 生涯学習部長 大場 生涯学習推進課長 近藤 生涯学習係長



○ ○
 永山 社会教育主事 齋藤 社会教育主事

第2回札幌市生涯学習推進検討会議における意見要旨

<第3次札幌市生涯学習推進構想の全体の内容について>

① 3次構想における「札幌らしさ」

- ・構想の全体像が見えた段階で検討するとのことだが、札幌市としての特徴・看板が欲しい。前回会議で、札幌に限定しすぎてはいけないという議論もあったが、札幌市民の誇りになるようなフレーズができれば良い。（和田委員）
- ・「札幌らしさ」というのは自分も気になった点。施策を網羅することで、札幌市としての特徴が見えなくなるので、そこに踏み込みたい。（平島委員）
- ・喜多委員から、人材は育てるというよりもむしろ地域の中から発掘することが大事という御指摘があったが、臼井委員のどういう社会を目指すかという点とも関連する。人口の減少はまちづくり戦略ビジョンでもこれからの札幌を規定する重要な条件だと言われている、どのように都市の活力を保っていくかが札幌市としての大きな課題とされている。そのような状況で、構想では新しいものを作るとか充実させるという点も大事だが、既存のものをどううまく維持するかという視点であったり、連携して一つのをどうシェアして使いまわすか、今あるものをメンテナンスしながら良い状態でどう長く使っていくか、「メンテナンス・シェア・リユース」というのが、今後札幌がどんな社会を目指していくのかという視点とつながっていると思った。札幌市としての特徴・看板がほしいという意見があったが、まちづくり戦略ビジョンの個別計画なので、基本的にはそれを参照することになると思うが、ビジョンでは「魅力と活力あるまち」と「安心して暮らせるまち」が言われており、すごく札幌市のまちの特徴を表現していると思う。活気・活力と安心のバランスを一つのまちにどのようにうまく作り出していくかという点に札幌らしさがあるので、そういう方向を学習としてどのように目指していくか、という考え方もたたき台としてある。（三上副議長）
- ・三上委員の御意見にあった、メンテナンス・リユース、つまり1次構想・2次構想できあがった既存のいろいろな施設やシステムをうまく整理・活用するというようなあたりも、逆に時代的な意義があると思った。その表現の仕方として、表に打ち出すのはおかしいかもしれないが、次から次へと作っていくのではなくて、今できているもの・人も含めて再発見・再発掘という視点が重要。（和田委員）
- ・前回会議意見にあった、あくまで視点は地域に根差しながらも、世界を見ていくという視点がまちづくり戦略ビジョンの2つの都市像にもつながると思った。その点からも地域でどう生涯学習を進

めていくかということと、活力・創造性を持った生涯学習をどう展開できるかというのを、3次構想の追い求めるものとして方向付けしていきたいと感じた。(近藤係長)

- ・地域、札幌市の様々な分野には既にそういった方がいて、その方々がどのように表に出ていけるようにするか、生涯学習という装置でどのように取り組むかというのが3次構想が求める姿という観点もある。(近藤係長)

② 3次構想で目指すべきゴール・社会の姿

- ・まとまっているのは良いが、まとまり過ぎて物足りない印象。生涯学習があくまでゴールになっているが、生涯学習施策を推進していったときに、最終的にどのような社会を目指すのかという部分が見えてこない。人々がそれぞれに共有するような、シェアし合うことに価値を持った社会が目指す社会だと思う。ゴールイメージは、現時点ではそれが左下の「これからの生涯学習に対し、特に期待される役割」に少しあるのかもしれないが、もっと前提としてあるべきと感じた。共有価値、シェアード・バリューというか、みんなが共有し合う価値をつくる。現時点のものは「人々が学習して、豊かな人生になって、地域のつながりができて、良かった」と小さなまとまりになっており、それが「札幌らしさが足りない」という部分につながっているのでは。もっと「こういう社会にチャレンジしていくための生涯学習なんだ、人々がこうなってほしいための生涯学習なんだ」という大胆なもの・チャレンジ精神が足りないと感じた。(臼井委員)

③ 子育て・家庭教育の視点

- ・全体的に家庭教育の視点がもう少し入れれば良い。家庭教育・親育ちについてもっと書き込むことで、「子育てしやすいまち」という点が札幌市の特徴となり得るのでは。(平島委員)

④ 世代間交流の視点

- ・世代間交流ということをもっと明確に出したい。施策の方向性1「各世代のニーズに応じた学習機会の提供」では各世代のことが述べられているが、そこがつながったり、お互いが影響し合ったりして、学ぶ部分があれば、歴史や文化の継承がより自然に起こる。全体には盛り込まれていると思うが、もっとはっきりと出すべき。(三坂委員)

→世代間の交流は人づくり・地域づくりのどちらに関係するのだろうか。(佐久間議長)

→とりあえずは地域から行われれば、そこから広がっていく。今は世代で区切られているという意識

になっているので、子どもから学ぶとか、子どもの視点を取り込むことが自然なことになれば、学校にも違う視点が生まれてくると思う。（三坂委員）

⑤ 学習成果活用・実践の視点

- ・学習したことをどう評価するか、成果を社会にどう生かすかという点が不十分な印象。生涯学習施策は機会を与えたり、場所を与えたりしているが、市民はそれをリターンするということをもっと明記できれば。（平島委員）
- ・人材は地域にいるが、どこでどのように活躍すれば良いかわからないという現状がある。活躍できる場の提供という要素もどこかに入れれば良い。（石井委員）

<体系図の構成について>

⑥体系図について（展開項目の内容が重複している箇所がある、階層の整理が必要）

- ・基本施策のⅠ、Ⅱ、Ⅲに対して、具体的にこういうことをしていかなければならないということが展開項目となっている。ただ、中には学びの質だったり、学びの中身になっていたりするものもあるので、すみわけが難しい。当然関連し合う、重なり合うものではあるが、具体的な事業を展開していくときに、所轄を十分考えておかないと、その重なりが連携せずに、どちらにも関係ないこととして連携が機能しない可能性もある。例えば、展開項目 15「社会人の学び直しなどの支援」でキャリアアップや再就職という言葉が出てきたが、方向性 2「多様な学習機会の提供」のところにも当然その人々は位置付けられて、展開項目の中身にも入ってくる。環境を充実させるための施策としてやっていくことなどの検討が必要。（木村委員）
- ・木村委員の御指摘にあった、施策の方向性と展開項目の関係性についてだが、それぞれの層がどういう性格のものなのか確認しながら議論できると良い。おそらく、施策の展開項目は重複しても良いもので、むしろ重複するような施策の方がある意味では優れたものなのでは。1つの施策を行うことで、一石二鳥にも三鳥にもなる、ある施策が複数の展開項目に挙がってくるのはむしろ良いことと考えられる。一方で、今回の構想の目的は生涯学習施策の体系化。基本施策・方向性で漏れや重複があると混乱するので、それぞれの階層の性格を確認しながら議論すべき。（三上副議長）

⑦重点施策について、「基本施策をまたいだものが重点施策」という表現方法もあり

- ・複数の施策にまたがっている展開項目の方が効果が高いはず、と先ほど申し上げたが、重点施策と

して取り上げるものというのは、2つ以上の基本施策を当然カバーするようなものであるべきと思う。今、上がっている重点施策もそういうものかと。例えば、サタデースクール事業は学校と地域のつながりをつくるというだけではなくて、おそらくそれ自体が重要な学習機会になっているだろうし、学校という場を生涯学習関連施設として位置付けるということにもなっていて、環境の充実の可能性を開発するということにも寄与する事業になっている。重点施策のプレゼンテーションの仕方として、どこかの施策の中に位置付けるのではなくて、複数のものが同時にできるので重点施策なのだという示し方をする方が理に適っている。（三上副議長）

- ・なぜ重点施策なのかという説得性という意味では、三上委員の意見のとおり、重なり合うところがあるという表現が良いかと思った。（和田委員）

⑧「これからの生涯学習施策に対し、特に期待される役割」の体系図上の位置を再考すべき

- ・体系表の左下に「これからの生涯学習施策に対し、特に期待される役割」とあるが、この位置に違和感がある。「特にこういうことを大切にしていきたい」ということなので、3つの基本施策を貫くような形で「これがやりたいことだ」という内容がはっきり示されるような工夫が必要。（木村委員）

<各施策の展開項目について>

⑨1 幼児・青少年期を育む学びの充実

- ・体系図自体は生涯学習に必要な基礎的な部分が網羅されているが、展開項目1「幼児・青少年期を育む学びの充実」について、幼児と青少年期は別の項目とすべき。幼児と青少年期とでは生じる問題が異なり、特に青少年には、就労や中等教育の課題もある。青少年期の活動・学びは札幌市として重要な項目。（佐々木委員）

⑩2 成人期の多様なニーズに対応するための学びの充実

- ・ワーク・ライフ・バランスの視点を入れたい。結局、「仕事が忙しくて学習できない」という現状がある。（平島委員）
- ・ワーク・ライフ・バランスは基本施策Ⅰの「人づくり」に位置付けるのも大事だが、基本施策Ⅲの「環境づくり」の問題でもある。どういう働き方をしているかというのは、学習も含めてそれ以外の生活の側面をどう調整できるのかということになるので、学習の環境づくりの非常に大事な要素

としてワーク・ライフ・バランスがある、という視点は大事にしたい。(三上副議長)

- ・施策の展開項目2「成人期の多様なニーズに対応するための学びの充実」とあるが、年齢の幅が広すぎると感じた。子育て世代というので一項目つくっても良いのでは。子育て世代は十数年の短い期間だが、人づくりとしては大事な期間。(石井委員)
- ・文科省のホームページなどを見ると、少子化や家庭教育について厚く取り上げられている。それを市町村がやっていくと考えたときに、もう少し展開項目として強く打ち出しても良いのでは。(平島委員)

⑪ 5 スポーツの振興、6 文化芸術の振興

- ・展開項目5「スポーツの振興」、6「文化芸術の振興」の「振興」という文言は展開項目の文言として違和感がある。全ての世代に一生涯、学習の機会があるというのを強調する必要はない。しかし、世代間が交流するということで、自立した社会人をつくるという点は大切。ここに世代間が交流する文化芸術、スポーツという内容であれば妥当。まだ社会へ出ていない子どもたちや親世代と一緒に、相互に社会参加するという内容は、芸術やスポーツになじみやすい。(竹川委員)
- ・展開項目6「文化芸術の振興」は北海道内の他の地域とは違う特徴が出せるので、札幌らしさを出すことのできる項目。大都市部の特徴として、大人も子どもも様々な芸術に触れる機会が他の地域より多く存在する。幼児・青少年期の項目に合わせると、情操教育として都市部の大きな特徴となり得るのでは。(佐々木委員)

⑫ 9 札幌のまちを支える人材の育成

- ・「人材育成」という文言があるが、生涯教育ではなく生涯学習であること、生涯学習の自主性を考えると違和感を覚える。展開項目9「札幌のまちを支える人材の育成」を「札幌のまちを支える人の輪を醸成する」とすれば、自立した札幌人が支える、大人の社会が見えてくる。(竹川委員)
- ・人材育成という文言については、竹川委員と同意見。生涯学習の大きな狙いとして、特に成人に関しては自主決定学習という要素があるので、「育成」というよりは、自分自身が自分の学習すべきことを決定して、活動したり学んでいったりするという姿勢が大事。(佐々木委員)
- ・人材育成とあるが、素敵な人材は既に地域にいる。育てるというより「発掘する」という視点も、展開項目9「札幌のまちを支える人材の育成」に取り入れられれば。(喜多委員)
- ・「育成」という言葉になると、自分のことから離れてしまうイメージがある。構想は、市民一人一人

が日々を営んでいく考え方に刺激を与えるものなのかな、と最初は思っていたが、このようになると、どうしても一人一人の市民とは別の視点が強くなってしまったと思った。どのくらいの人が構想を目にして、本気で読むのかはわからないが、やはり構想のあるまちの中で、誰かが何かをやってくれるというのではなく、一市民として自分が日々生きているんだということを感じ取れるということもすごく大事。それにより、主体的な市民が育っていく。表現は難しいが、育成という言葉がそれとは異なるイメージを市民に与えてしまう気がする。(三坂委員)

- ・展開項目9「札幌のまちを支える人材の育成」で、生涯学習で学び合う協力体制みたいなもの、そのような人々を育てるという視点があると良い。例えば、耳の不自由な人が講座を受講したときに、受講生の一人が講師の話をパソコンの画面に打ち込み、それを見ることで耳の不自由な受講生は講師の話を理解することができ、打ち込んだ受講生にとっても講師の話が頭に入ったというような、そういった市民をむしろこの生涯学習では求めていくんだという姿勢があっても良いのでは。(臼井委員)

⑬10 学びをコーディネートする人材の育成

- ・基本施策Ⅰの「人づくり」の中に「コーディネートする人材の育成」が入っているが、コーディネートは全体に関わるものなので、基本施策Ⅱの「つながりづくり」や基本施策Ⅲの「環境づくり」に入るのでは。コーディネートする人材がまだ育っていないというスタンスで書いてあるが、それをもっと環境をつくっていくというような、学ぶ人が全てコーディネートする役割を果たしていくような施策になり得ないのかなと感じた。(臼井委員)
- ・コーディネート人材の育成については、「コーディネーターを育成すること」が目的ではなく、「そのような人が市民の学習を支援すること」が目的ということになると、コーディネーターの育成は環境づくりとなるので、展開項目10「学びをコーディネートする人材の育成」の位置については考える余地がある。生涯学習の振興において学習環境というのは重要な要素で、自発的・自主性が重視される中で、学習情報提供や学習相談、指導者・支援者・コーディネーターの養成・発掘・育成も環境の側面から見ることができる。学習成果の評価・活用、生涯学習関連施設の整備・充実・ネットワーク、さらには生涯学習に関する様々な団体の支援も環境。その側面で捉えると、「育成」という文言についての議論はあるが、基本施策Ⅲの「環境づくり」として、コーディネーターの育成という内容を置く方がしっくりくるかと。(佐久間議長)
- ・基本施策Ⅲの「環境づくり」に人材育成を入れる方がしっくりくる。「環境」という言葉からはハー

ドの部分だけをイメージしてしまいがちだが、ハードの部分は、今あるものをどう生かしていくかというのが大事なので、それに伴う人材が必要。そのような人材育成は環境整備に入れた方がわかりやすい。(三坂委員)

⑭11 学習活動の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実

- ・「充実」「推進」という文言が施策の方向性と展開項目の両方に書いてあるので今後整理されていくものだと思うが、展開項目 11「学習活動の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実」で、今ある場所を充実させるという考え方もあるが、そのような場を増やすという方が、学びの場・まちづくりの場が広がると思う。(喜多委員)

⑮18 身近な地域で学びを深められる環境の整備

- ・施策の展開項目 18「身近な地域で学びを深められる環境の整備」は具体的にどのような事業を想定しているのか。(三上副議長)

→未確定な部分だが、図書館協議会から今後出される答申が関係するかと。身近な施設としての図書館、また生涯学習の入り口としての読書活動を推進する施設として何ができるか、など。「身近な」という点では、取り入れられる新しい要素がある。(近藤係長)

- ・展開項目 18「身近な地域で学びを深められる環境の整備」と 19「時代の変化に対応した生涯学習関連施設の運営、機能強化」の違いは。(三上副議長)

→18 は新しい取組、19 は既に主に指定管理制度のもとで行われている、生涯学習センターをはじめとする施設の運営や、18 と重複する部分もあるが、図書館の運営を進めていくというもの。(近藤係長)

- ・自分は図書館協議会にも参加している。図書館は図書館で、生涯学習の関連として何ができるかということを話し合っている最中。「既存の」という部分でいうと、既存の組織を変えられる状況にない中、生涯学習との関連の中で図書館自身も新しいことをやっていかなければという必要性を感じていて、新たにできることや、他の機関との関係性などを考えているところ。今までどちらかと言うと、図書館からこういう活動ができますよという情報提供・場の提供をするというよりは、静けさを破るものを排除するような傾向があったが、これからはそうではないという議論があった。海外では、図書館の中にいろいろなブースがあり、各世代に開かれた形で様々な展開をしていて、これからの図書館はこのようにあるべきではという意見もあった。いろいろな機関と連携しながら

市民のニーズに応える様々な取組をしていかなければならないということで、具体的な意見もいくつか出てきているところ。重点施策の関連での動きということで、発言させていただいた。（木村委員）

- ・学校図書館地域開放事業も札幌市の特徴。身近な地域にある学校図書館で、そこが地域のコミュニティになったり、発信をする機会があったりする。図書館と言うとおおげさに考えがちだが、地域にはいろんな規模の図書館があるので、そこが知の源になるという意味では、非常に有効に使える場。（三坂委員）

- ・展開項目 18「身近な地域で学びを深められる環境の整備」に関連し、ヨーロッパでは道端に本棚があってそこで本を読めるという取組もあり、そのような環境は大事と思う。また、そういったものを地域に任せて自由にやらせてくれる環境の整備、まちの人が主体になって行政の仕事ができる環境整備が必要。「主体的に」というところが本当に大事。自分はそのようには思っていないが、北海道の人は「行政の人がやってくれる」と思っている人が多いと言われている。主体的に自ら取り組めるような環境整備が、今後重要になってくるので、商店街・学校など、まちの中でふつふつと自主的な活動ができる行政の施策や条例を整えるなどの環境整備が必要。（喜多委員）

- ・スポーツや文化芸術について考えると、これらは全て“play”という動詞が用いられる。playと言うと日本では遊びのイメージが強いが、“play tennis”“play the piano”のように、play の感覚を広げて学習概念を捉えていくと、もっと身近に学びを楽しめたり、深められたりする環境というような、広がりのある概念となる。展開項目 18「身近な地域で学びを深められる環境の整備」にそのような概念を含められると良い。（臼井委員）

- ・自分は永山記念公園の再開発に関するワークショップの企画メンバーになっている。地域市民・行政・企業など、プロの人々が連携して再開発をしていこうという会で、それ自体が生涯学習だったのだと感じた。展開項目 18「身近な地域で学びを深められる環境の整備」に関連するが、行政が主体となって、ワークショップを主催し、地域の皆さんや企業に声をかけてくれたからこそ立ち上げられた会なので、そういった意味で、環境の整備としては行政が主体となってまずやってみて、そこから声をかけていく姿勢が大事と思った。また、この会を振り返って思ったことだが、展開項目 12「地域と学校が支え合ってつくる学びの推進」に企業という視点も入れると、行政・市民・学校の中に民間企業のよりおもしろい視点も入ってきて、まちづくりや人づくりが活性化すると感じた。

（石井委員）

- ・展開項目 18「身近な地域で学びを深められる環境の整備」に関連し、結局良い社会をつくるためには高度な研究・知見を使うという姿勢を持たないと素人の社会になってしまうので、図書館が開か

れた図書館になり、そこでいろいろな催しがあるのであれば、それに関連してどのような研究論文があるのか知れることが大事。研究されたものをベースにしながら実践にそれを取り込むということが、生涯学習の質を高めることになる。図書館司書が「このことについて何か文献がありますか」という質問に対して答えられるような能力を持つことが重要。そうすると図書館が知恵の場所になる。(竹川委員)

⑩19 時代の変化に対応した生涯学習関連施設の運営、機能強化

- ・前回会議で、まちづくりセンターを学んだ成果の実践に生かす旨の意見があったが、展開項目 19「時代の変化に対応した生涯学習関連施設の運営、機能強化」に書き込めれば、「社会に対して責任を果たす実践」という視点が見え、社会と関わる人々の中で実践されなければならないことが表される。(竹川委員)

⑩20 学びを進める人材登録・紹介制度、出前講座の展開

- ・まちづくりに関わる人材の発掘は非常に重要なので、展開項目 20「学びを進める人材登録・紹介制度、出前講座の展開」にも、発掘の要素が入ると良い。(大森委員)

⑩21 学びの場の連携の推進

- ・基本施策は「～づくり」となっているが、学習という視点から見ると、「豊かな人生を営むための学習」「自らの仕事の枠を広げるための学習」があり、その他のところに「まちづくり」がある。まちづくりは他の2つとは違う体系にあるので、まちづくりという部分を詳しく、強化することが、札幌市のつくる生涯学習体系のひとつの特徴になると思った。展開項目 9「札幌のまちを支える人材の育成」とあり、不足と言われる観光人材の育成を想定していたり、障がい者のための学びを行うべきという委員意見あったが、NPO法人などのいろいろな主体がそのような取組を行っている。展開項目 21「学びの場の連携の推進」にも関連するが、商工会議所・商店街・NPO法人などの生涯学習を行う様々な主体や、それらの主体により作られる場があり、どのように連携していくかという視点が施策を具体化する中で必要になる。先ほど委員意見にあった、まちづくりセンターを生涯学習施策として活用することについては、まちづくりセンターは所管や関係する法令も違い、大変難しいことだと思うが、そのようなことを行うためにも横の連携が大切。まちづくり政策局のような部署が音頭を取れるような仕組みができれば、他の都市にはない構想となる。(大森委員)

- ・企業により、市民が自由に使える本棚が設置されたという事例もある。行政、市民一人一人だけでなく、企業もそういったものに基づいた視点で商売を考えていくというふうにすると、CSRの視点も含めて、みんながそれに向かっているというような姿勢をつくっていくというのが、札幌のまちに必要な要素。(三坂委員)
- ・第3次札幌市生涯学習推進構想はあくまで行政の施策についての構想だが、その中で「市民への期待」「企業への期待」を書くことができるのでは。(佐久間議長)

⑱その他 入れるべき具体的な要素

健康について

- ・展開項目3「高齢期を豊かに過ごす学びの充実」に入っているとは思いますが、全体を見て、健康という視点が弱いように感じた。今、メディコ・ポリス構想のように、医療と福祉が連携してまちづくりをしていくという考え方もある。また、子どもにとっても健康は大事。スポーツの振興には入っている内容かとは思いますが、もう少し項目として強調しても良い。(喜多委員)

外国人向けの学習について

- ・札幌に住んでいる外国人への教育、大人への日本語教育も構想に含んでほしい。(佐々木委員)

多様性の尊重に寄与する学び

- ・障がいのある人の学び、途中から障がいを持つことになった人々のための学び、また、そういう方々を理解するための学びも重要なので、その視点を入れられれば良い。(喜多委員)
- ・障がい者を含めた、ダイバーシティ・多様性のところを施策の方向性や展開項目に入れ込んでいくときのスタンスとして、札幌市が生涯学習のことを全て支えるという視点ではなく、生涯学習に取り組んでいる方々が協力し合って足りない部分を補い、うまくいかない方々を支え合うみたいなことをもっと出しても良い。学習の参加者がもっと主体的に協力し合って進めていく、というところがほしい。(臼井委員)

第3章 私たちが目指す札幌市の将来

これまでの札幌市は、人口の増加や市域の広がりなど、量的な拡大を背景に、社会基盤整備を基軸としたまちづくりを進め、身近に感じられる豊かな自然と高度な都市機能が調和した魅力的な都市として、国内外から高い評価を受けてきました。

しかし、今後、人口減少社会の到来や、生産年齢人口の減少に伴う経済規模の縮小が見込まれる中、これまでの右肩上がりの社会構造を前提とした価値観は大きく変わりつつあり、いわゆるパラダイム⁴⁷の転換が求められています。

このような中であって、私たちは一丸となって、今後見込まれる人口減少の緩和に努めるとともに、都市の活力と生活の質を高めながら、先人が知恵と努力で築き上げてきたこのまちを、次世代に良好な形で引き継いでいかなければなりません。

そのためには、市民、企業、行政などが、それぞれの立場でまちづくりへの役割を果たしていくことが重要であることから、この戦略ビジョンは、「市民計画」として位置付けるとともに、市民と共有するビジョンであることを基本的な考え方としています。

そこで、この章では、私たちそれぞれが、今後のまちづくりに当たって共有できる将来のまちの姿を、目指すべき都市像として以下に掲げます。

■目指すべき都市像

北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち

札幌・北海道の様々な魅力資源を、一人一人の創造性によって、より磨き上げながら、それを国内及び世界に発信することで、世界との結び付きを強め、投資や人材を呼び込むなど、世界が憧れ、活力と躍動感にあふれる、心ときめくまちを実現します。

新たな価値を生み出す創造とチャレンジ

札幌・北海道が持つ豊かな自然や文化と、先人たちがこれまで育んできた北方圏ならではの知識や技術などの貴重な資産に、今後、創造性から湧き出るアイデアによって更に磨きをかけるとともに、若者を始めとする様々な人々が、先駆的な取組にチャレンジできる環境を整えることによって、絶えず新たな価値が生み出されていくまちを目指します。

⁴⁷ 【パラダイム】 ここでは、ある時代や分野において支配的規範となる「物の見方や捉え方」のことをいう。

札幌型ライフスタイルの追求

芸術の薫り漂う、札幌ならではの個性と楽しさにあふれる都市文化と、うるおいのある豊富な自然環境の中で、多様な文化や新しいモノを取り入れ、新しいコトに挑戦していくなど、創造的に暮らす、世界が憧れる札幌型のライフスタイルを追求し、その魅力を発信します。

世界に誇る環境首都の実現

先人たちが築き上げた北方圏ならではの都市機能と、北海道の豊富な自然エネルギーを生かしながら、環境負荷の少ない暮らしを追求するなど、低炭素社会と脱原発依存社会を目指した持続可能⁴⁸なまちづくりを進め、世界に誇れる先進的な環境首都を実現します。

互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

誰もが生きがいと誇りを持ちながら、互いにつながり、支え合うことで、生きる喜びと幸せを感じられる、心豊かで笑顔になれるまちを実現します。

つながりと支え合いのまちづくり

誰もがその能力を十分に発揮し、自らのできる範囲で社会的な役割を果たすとともに、互いの個性や多様性を認め合う寛容さと相互の信頼感の下でつながる共生のまちづくりを進めます。

道内市町村との連携と魅力創造

「北海道の発展なくして、札幌の発展はない」との考え方の下、私たちは北海道全体の発展を常に意識し、道内の魅力資源と札幌の都市機能を融合させながら、他の都市や地域と手を携え、北海道の魅力を更に高めます。

世界の中での都市の共生

国際平和や人権擁護はもとより、環境・エネルギーなどの地球規模の課題への取組が求められている中、世界の都市の一員としての責任と役割を果たすことにより、世界と共生していくことを目指します。

⁴⁸ 【持続可能】ここでは、人間活動、特に文明の利器を用いた活動が、将来にわたって持続できるかどうかを表す概念をいう。